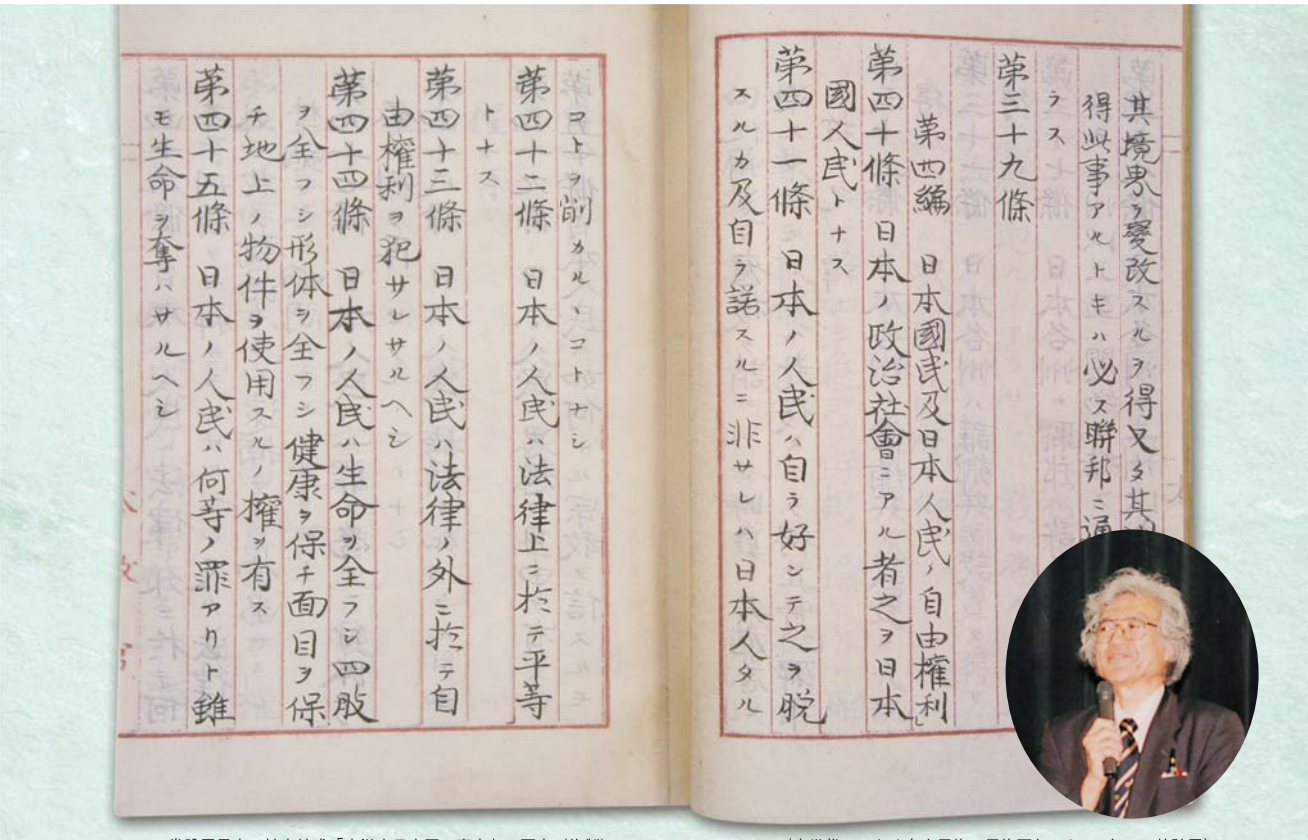
自由民権記念館だより

自由のともしび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 75
2013 September

- 平成25年度企画展「おしえて！学校大事典」
- 夏休み子ども歴史教室の報告
- 民権史跡めぐりMAPその(2)～天神橋通商店街界隈編～
- 資料紹介：「立志学舎の勤惰表」



常設展示中の植木枝盛「東洋大日本国々憲案」の写本（複製）
原本は国立国会図書館蔵

〈次世代につなぐ自由民権　民権百年から120年への軌跡展〉
記念シンポジウム「今、自由民権を考える」で講演する安在邦夫氏
2005年10月8日　於民権ホール

●リレーエッセイ

自由民権運動史に学ぶ

高知近代史研究会の研究報告会が70回を迎えます。そこで、70回を記念して、安在邦夫早稲田大学名誉教授に「自由民権運動史への招待―いま、なぜ自由民権運動か―」と題して講演をお願いしました。

安在氏は「きわめてオーソドックスな方法・姿勢で」長年自由民権運動の研究をされてきた第一人者です。最近の編著書には演題と同じタイトルの『自由民権運動史への招待』（2012年）をはじめ『近代日本の政党と社会』（共編著2009年）『自由民権の再発見』（共編著2006年）などがあります。

安在氏は『自由民権運動史への招待』で「新しい国民的秩序を造形しようとして各地各層が燃えた自由民権運動の精神と営為をいま学ぶことは、方向性を喪失した昨今の政治・社会状況を考えるとき、大切な課題といえるのである」と述べています。

一方、自由民権運動史研究では1990年代以降、安在氏が「運動の歴史的意義の過小評価へと導く」「自由民権運動史研究の希薄化を不可避とする状況」と指摘する動向があります。

高知においては、外崎光広氏の先駆的な業績に、1980年代の自由民権百年の取組みや1990年の自由民権記念館開館などを契機として、多くの調査研究成果が蓄積されています。その成果をふまえ、いま、あらためて自由民権運動の歴史的意義、土佐の運動の位置づけを考えたいと思います。

講演は、平成25年9月21日(土)午後1時30分から3時30分まで民権ホールで開催します。土佐の自由民権運動史はもとより、広く歴史に関心のある方に、大変興味深い講演になると思いますので、多くのご参加をお待ちしています。

（高知市教育委員会参事　筒井秀一）

平成25年度企画展

おしえて！学校大事典

2階特別展示室で11月24日(日)まで開催中

本展は小学校を中心とする学校について、その変遷やかってのようすなどを展示するものです。

本展ではまず、日本における近代教育制度の変化について紹介しています。

日本の教育制度は1872(明治5)年の学制公布によってはじまりますが、それ以前の教育やその後の制度の変化などにもふれ、戦後の教育改革によって現行制度ができたところまでを、Q&A形式で紹介しています。たとえば、いまでは小学校は義務教育となっていますが、当初は義務教育ではありませんでした。それでは、いつから小学校は義務教育となったのでしょう。そうしたことが展示でわかるようになっています。

また、むかしの学校生活や行事の写真も展示しています。そのなかには運動会や学芸会、修学旅行など、いまでもおこなわれている行事のものもあります。一方、川での水泳の授業や1940(昭和15)年に全国で開催された皇紀二千六百年祭のようすなど、いまではみられない情景を写した写真もあります。特に入学や卒業の記念写真については、時代別に取り上げ、その変化をうかがえるようにしています。

さらに、小学校で使っていた教科書も、教科書制度の移り変わりとあわせて展示しています。これらは、江戸時代の藩校や寺子屋で使われていたものからはじまり、自由に採択していた当時のもの、検定制度がはじまってからのもの、国定制度に変わってからのもの、と時系列で紹介しています。その科目も、国語・算術・歴史(国史)・地理・理科・唱歌・修身・図画など、バラエティに富んだ内容になっています。

このように、本展では多くの資料を展示していますが、なかでも興味深いのが卒業記念に贈られた掛軸です。これは西分村(現高知市春野町西分)の尋常小学校の卒業生男子に対して贈られたものですが、13条の告諭(言い聞かせ)が書かれています。これは村がつくった条文で、学校が掛軸にして贈っています。そして、村の規則によって、卒業生は永久に自宅へ掛けておかなければならず、しかも卒業後は毎年春に学校へ集められ、掛軸の内容を実践しているか確認するようになっていました。そうした背景とともにごらんいただければと思います。

昭和20年代の授業風景

尋常小学校入学生(昭和11年)

遠足

本展は多くの方になじみのある「小学校」をテーマとしているので、幅広い年代層の方に楽しんでもらえる展示を心がけました。現役の小学生である子どもたちには目新しく、かつて小学生であった高齢者の方々にはなつかしい写真や資料が多くみられることでしょう。また、開催期間中は数回の展示替えも計画しています。ぜひご来館ください。

西分尋常小学校の卒業記念掛軸

これからの関連行事

○展示解説

9月14日(土)、11月2日(土)　13:00～(30分程度)

※申込不要・観覧料が必要です。

○記念館講座

9月28日(土)、10月12日(土)　14:00～16:30

テーマ1「自由民権運動と学校～立志学舎を中心として～」

講師：松岡僖一(当館館長)

テーマ2「近代教育制度と高知市の学校」

講師：徳平晶(当館学芸員)

※申込不要・参加無料です。

平成25年度

夏休み子ども歴史教室の報告

7月24日(水)、今年で16回目となる恒例の「夏休み子ども歴史教室」が高知市教育研究会社会科部会との共催により、自由民権記念館で開催されました。

この催しは、自由民権運動の歴史を常設展示室の観覧やクイズ、歌、劇などで楽しく学び、郷土の歴史について知識を深めてもらおうと始めたものです。当日は、高知市内の小学4年生から中学生の96名が参加し、おおいに賑わいました。

運営には高知市教育研究会社会科部会の先生方、「高知県民謡協会」、劇団「笛の会」の皆さんにご協力いただきました

朝早くから子供たちの笑顔と元気な声が飛び交い、日頃は静かな記念館もこの日ばかりは活気に溢れていました。

受付を済ませて民権ホールに入ると班別の座席に座り開会式をまちます。開会式のあと、「自由民権って何?」という当館製作のビデオを鑑賞し、先生からの説明をしっかり聞いたら、いよいよクイズラリーに出発です。

クイズラリーでは、5つのチェックポイントがあり、これらのチェックポイントを通過するとラリーマップに民権家スタンプを押してもらうことができます。スタンプを5つ集めたらラリー完了です。各チェックポイントの内容は次のとおりです。

第1チェックポイント

「高知県民謡協会」の皆さんの三味線と太鼓の伴奏に合わせて、植木枝盛が作詞した「民権かぞへ歌」を歌います。生伴奏に最初は戸惑っていた子供たちですが、民謡協会の皆さんのご指導で元気よく歌いきりました。

第2チェックポイント

研修室で自由民権運動の時代に実際に作られ遊ばれていた、「民権すごろく」遊びを体験しました。

第3・4チェックポイント

常設展示の説明を受け、展示資料の中からヒントを探しクイズに答えます。ちょっと難しい問題もありましたが、みんな一生懸命に挑戦してくれました。

第5チェックポイント

劇団「笛の会」のみなさんによる政談演説会を再現した芝居を観て、クイズに答えます。

当時さながらの迫力ある劇に驚き圧倒されながらも、子どもたちも聴衆の一人となって、「そうだ!そうだ!」とかけ声をかけたり、拍手をしたりして大いに盛り上げてくれました。

参加者全員がすべてのチェックポイントを通過した後、閉会式が行われ、今年の歴史教室も無事お開きとなりました。参加された皆さんお疲れさまでした。

出題されたクイズの一例

問1 1882年(明治15年)7月16日に高知新聞に関するあることが行われました。それは、次のうちどれでしょうか?

①結婚式 ②葬式 ③誕生会

問2 1886年(明治19年)熊野灘で座礁・沈没し、日本人乗客25名全員が死亡したイギリスの貨物船の名前は次のうちどれでしょうか?

①サウザンド・サニー号
②タイタニック号
③ノルマントン号

クイズの答え　問1/②　問2/③

③回天社跡

場所：帯屋町2丁目　（帯屋町公園）

藩政時代から士格・軽輩が各所に割拠分立して小集団を形成したが、その小集団が離合集散しながら出来た政社の一つ。1877（明治10）年ころ以降は、他の政社と共に立志社の傘下に入って活動した。1887（明治20）年頃まで維持された。

④立志社跡

場所：帯屋町１丁目　（中央公園東端）

設立当初は旧開成館にあったが、1876（明治9）年頃、町会所のあった帯屋町に移った。機関紙を発行し、政談演説会を開き、法律研究所を設けて弁護の任にあたり、立志学舎を設けて子弟の教育に務めた。文字通り運動の中心地である。

⑤板垣退助生誕地跡

場所：本町２丁目　（高野寺）

板垣は明治になって萩町新田に移り、1876(明治9)年頃、立志学舎が九反田の旧開成館からこの邸に移ってきた。慶応義塾から教員を迎えて英学を中心とし、「関西の慶応義塾」と称呼され、多くの民権家を輩出した。現在その門は、比島にある龍乗院の山門となっている。

⑦後藤象二郎生誕地跡

場所：与力町５　（土佐教会、天神橋北詰）

土佐藩の改革者吉田東洋は義叔父。吉田の富国強兵路線を継ぎ九反田に開成館を開設。藩主山内豊信（容堂）に進言して大政奉還建白書を提出。板垣とともに自由民権運動の主要な位置を占める。近所に1歳年上の乾（板垣）退助、5歳年下の片岡健吉がいる。

⑥片岡健吉生誕地跡

場所：本町２丁目　（板垣邸の 80mほど東隣）

片岡は、板垣たちと一緒に立志社を設立し、二度にわたり政府に建白書・請願書を提出する総代になるなど、常に自由民権運動の中心に位置した。後にキリスト教の洗礼を受け、同志社の社長、また衆議院議員となり、議長にもなった。

①片岡健吉銅像

場所：丸ノ内１丁目　（県議会議事堂入口横）

1879（明治12）年高知県議会初代議長、のち衆議院議員、衆議院議長に就任。片岡の銅像は、板垣や坂本龍馬の銅像より早い1916（大正5）年に建立（本山白雲作）されたが、軍需資材として供出され、現在の像は1963（昭和38）年再建（浜口重威作）。

②板垣退助銅像

場所：丸ノ内１丁目　（高知城登り口）

1923（大正12）年に建立された銅像(本山白雲作)は軍需資財として供出、現在の像は1956（昭和31）年再建(浜口重威作)。右手をまっすぐ突き出して演説している像である。すぐ側に「板垣死すとも自由は死せず」の碑がある。

天神橋通商店街界隈の民権史跡

この界隈には、板垣退助の生誕地がある。この板垣邸は、1876（明治9）年立志学舎に開放され、多くの民権家を生み出した場所である。そして近隣には片岡健吉や後藤象二郎の生誕地がある。ここから南に向かって天神橋を渡ると、海南自由党の結成集会を開いた要法寺がある。北に向って15分も歩けば高知城があり、その登り口に板垣が演説している銅像がある。この像の除幕式には1万人もの人が参加した。板垣像から東に10分ほど歩けば中央公園に至り、その東端に立志社跡の碑がある。その意味で、この界隈は自由民権運動の中心地といえる。

⑨海南自由党結成の地

場所：筆山町８　（要法寺）

1882(明治15)年5月7日、高知県7郡の民権派の総代百余人が要法寺に集合して、海南自由党結成集会を開き、「海南自由党規約」と「規則」を決議した。常備員には片岡健吉、武市安哉など5人が選ばれた。

⑧発陽社跡

場所：天神町 14　（用水路沿）

1877(明治10)年、潮江村に結成された。機関紙『江南新誌』を発行するなど、立志社傘下の有力な民権政社の一つである。主な民権家としては北川貞彦、弘瀬重正、宮地茂春などがいる。

平成24年度企画展報告

「日清戦争とメディア」

錦絵「日清戦争日本大勝利ノ図」

自由民権記念館では、平成25年3月23日（土）から5月19日（日）までの期間、平成24年度企画展「日清戦争とメディア」を2階特別展示室で開催いたしました。開催期間中は多くのみなさまにご来館いただき、まことにありがとうございました。また、みなさまからいただいた貴重なご意見はこれからの事業に活かしていきたいと考えています。

さて、本展は1894（明治27）年におこった日清戦争をテーマとしたものですが、展示資料の中心となったのがメディアです。本展においては、新聞や雑誌などの今日的な意味のメディアのみならず、日清戦争について記録あるいは表現したものを総じてメディアと定義しました。そのため、新聞や雑誌のみならず、錦絵などの絵画、小説、日記、子ども向け読み物、漫画、双六、記念碑（パネル）など、展示資料は多岐にわたりました。

本展ではまず、日清両国が戦争にいたるまでの過程を、日本の近代化と朝鮮・琉球との関係などをふまえて展示しました。ここではおもに新聞をパネルで展示し、日清関係が緊迫するたびに新聞がどのような主張をしていたのかを紹介しました。日清戦前にはさまざまな論調が存在していた新聞でしたが、開戦直前になると戦争を肯定するものが多くなり、社会の戦争熱を煽っていきました。特に福澤諭吉ら、当時の著名なジャーナリストは新聞で開戦を主張し、戦争肯定に向かう世論の後押しをしました。展示ではその代表的な論説を取り上げました。

1887（明治20）年当時の
東アジア情勢を描いたビゴー作の風刺画

また、日清戦争を伝えたメディアとして、関連する錦絵を展示しました。錦絵は木版刷りの多色画ですが、写真があまり普及していない当時においては視覚に訴えるメディアとして、大いにもてはやされました。しかし、日清戦争を描いた錦絵の構図には政治的なメッセージが隠されていました。展示ではそのメッセージも紹介し、錦絵に潜む危険性を説明しました。

さらに、日清戦争とそれを伝えるメディアが社会におよぼした影響について、新聞や資料を使って展示しました。高知県にのこる日清戦争関連の記念碑もパネルで紹介しましたが、記念碑は従軍者を顕彰するものが多く、当時の人々が日清戦争にどのようなイメージを抱いていたのかがわかるものでした。

最後に、日清戦争におけるメディアの多くは、戦中・戦後を問わず、戦争を肯定的にとらえたメッセージを発し続けました。そして、人々はそのメッセージを無批判に受け入れました。その結果、日清戦時に形成された日本の民族的優越感や中国・朝鮮に対する侮蔑意識などは受け継がれ、それが日清戦後の日本の外交政策に影響をあたえました。それから日本がどうなったのかはご承知のとおりです。あらゆるメディアからさまざまな情報が得られる現代を生きる私たちは、このことを教訓としなければならないでしょう。

征清紀念之碑（宿毛市）

「戦場としての平壌」
1894（明治27）年10月11日付『国民新聞』付録

資料紹介

立志学舎の勤惰表

1874（明治7）年4月、九反田の旧開成館に立志社が設立され、同時に立志社の教育機関として立志学舎が開設された。1876（明治9）年頃、立志社は帯屋町一丁目（現大丸）に移り、立志学舎は本町筋の板垣退助生誕の邸（現高野寺）に移った。この頃から立志学舎は、慶応義塾出身の若い教員を招聘し、英学を中心とした。ここに紹介する「明治十年下半季立志学舎大小試験並勤惰表」は、その頃の成績表の一枚である。

クラスは、第一等生から第六等生、さらに等外一級生から等外三級生、等外三級生は更に甲乙丙の計十一クラスに分けられている。クラス分けは、クラス毎になされる大試験（年二回の季末試験）、小試験（毎月の試験）の「読方」の点数で決定された。その「読方」の対象となるテキストは、「課則」として表末に記されている。

高知市民図書館蔵／当館常設展示中（複製）

（課則）

第一二等生	ベンサム『法理書』	ミル『自由之理』
第三等生	ウールセー『万国公法』	ミル『代議政体』
第四等生	ギゾー『文明史』	ルツセル『政体書』
第五等生	スチウデント『仏国史』	ウエーランド『修身書』
第六等生	クエツケンボス『窮理書』	チャンバー『経済書』
等外一級生	クエツケンボス『大米国史』	グートリツチ『仏国史』
同二級生	グートリツチ『英国史』	グートリツチ『万国史』
同三級生甲	バーレー『万国史』	クエツケンボス『文典』
同乙	チャンバー『第二リートル』	クエツケンボス『小文典』
同丙	ヴヰルソン『第二リートル』	スペルリング

これらのテキストは総て英書である。またクラス内の席次は、大試験、小試験、出席割合、算術割合を各100点に換算し、その合計点で決められた。

このカリキュラムは、当然のことながら当時の慶応義塾のカリキュラムに近似している。慶応義塾出身者が、慶応義塾のカリキュラムで、慶応義塾と同じ方法で教えたので、世人は立志学舎のことを「関西の慶応義塾」と称した。当時立志学舎の学生であった島崎猪十馬は、次のように述懐している。

「教師は慶応義塾の出身門野幾之進、矢部善造、深間内基、城泉太郎の四氏を相前後して招聘し、専ら英書を教授せり、教場に於ては今日の如く注入的に教へ込み、唯に暗記を強ゆる等のことなく、生徒相互間に研究せしめたる上、愈々其の不解に就てのみ初めて教師より解説を与へると云ふ、自立主義に即して理解力を高め、学力を進め人物養成の上に於て、洵に理想的の教授法なり。此の新彩ある学風によりて最新の智識を取得せんとする者多く、世人関西の慶応義塾と称して俊髦の淵叢たり」

（島崎猪十馬編『旧各社事蹟』）

民権家人物録

安岡（やすおか）　道太郎（みちたろう）
（1847～1886）

安岡道太郎は、弘化4（1847）年3月18日、香美郡山北村の郷士安岡文助、みつの三男に生まれた。長兄は小軍監として東征に従軍、会津で戦死した覚之助。次兄は吉田東洋を暗殺して脱藩、天誅組の大和義挙に加わって捕らえられ、京都六角獄舎で処刑された嘉助である。安岡家は「本家」を中心に、「お上家」「お下家」「お西家」があり、安岡三兄弟は「お西家」の出であった。

道太郎は初め道之助と称し、文久元年4月から翌年5月まで兄覚之助と共に土佐藩の大坂陣屋詰を命ぜられ、戊辰戦争では迅衝二番隊に属して従軍。安塚の戦いで負傷後送となったが、平癒して前線復帰。明治2（1869）年その戦功により新御留守居組となった。翌年高知藩の探索修練者募集に応じて上京。5年から東京府の第一大区一小区権区長を務めた。7年征韓論による板垣退助下野に伴い帰郷。土佐郡江ノ口村大川淵に住み、立志社創立に参加した。10年『海南新誌』（のち『土陽新聞』）の編集・印刷人となり、植木枝盛らと言論活動の中枢を担った。同年暁鴉山人の名で出版した民権歌謡『世しや武士』は、当時、高知市中の料亭で夜毎歌われぬ日はないと言われるほど大流行した。

明治11（1878）年愛国社再興のため福井県人・杉田定一と共に紀伊及び西海道九州を遊説。14年『高知新聞』が片岡健吉を社長に立志社機関紙になると給料15円の雑報記者になった。15年4月には、板垣遭難の報に接し、同志40余名を率いて岐阜へ急行している。

自由民権運動に対する政府の言論弾圧は峻烈をきわめた。15年1月から絵入りになった『土陽新聞』の題字図案は、水平線から立ち昇る朝日を眺める岩場の猿多数を描いている。これは道太郎が「見ざる・聞かざる・言わざる」の皮肉をこめて意匠したもので、風流を愛し、機知に富んだその性格をよく表している。

明治19（1886）年6月29日、道太郎は結核のため39歳で死去した。植木枝盛は翌日の日記に、「安岡へ悔みに行く。安岡合棺。予柩に対し演説。狗を貫ひ来る」と書いている。

自由のともしび（Vol.60から）がホームページでご覧いただけます。
ホームページアドレス　http://www.i-minken.jp/

常設展示　Q&A
- 16 -

Q　第一議会の衆議員議席表という資料を見ると、高知県出身の自由党議員７名がバラバラに座っていますが、固まって座っていないのは何故ですか？何か特別な席決めの方法などがあったのでしょうか？

A　議員の席次番号は、部属を振り分ける目的で、会期ごとに抽選によって決められていました。

部属及び部長の選出については，「議員法第４条」、「衆議院規則第 16 条以下」に基づいて行われ，総議員は９部に配分され各部から部長１名と理事１名を互選により選出しました。

部属の制度は、議院法の制定に当たり、政党が議院の運営、特に委員の選出を左右することを防止するねらいで作られました。小数に振り分けられた議員が、各部において委員を選挙することにより、多数党が委員を独占することを防ぐことができると考えられたようです。

自由民権記念館出版物のご案内

○常設展示の案内ー新版（2013年11月発行）

1991年３月初版発行の「常設展示の案内」が、1995年の改定から18年ぶりにリニューアルされます！

（旧版）

○紀要第21号

（2013年９月末発行　頒布500円）

〔論文〕
- 「西本利喜と高知の部落解放運動」　吉田文茂
- 「『土陽新聞』広告にみる日清戦争と地域コミュニティ」　徳平晶
- 「草奔の民権家・曾田愛三郎」　松岡僖一

〔目録〕
- 寄贈寄託資料目録
- 図書等寄贈者一覧

高知近代史研究会（第70回）のご案内

〔テーマ〕　**自由民権運動史への招待**
－いま、なぜ自由民権運動か－

〔講　師〕　**安在邦夫**（あんざいくにお）氏（早稲田大学名誉教授）

現在問われている原発・改憲問題は、いずれも自由・民権に深い関わりを有している。自由民権運動史に関心を寄せてきたものとして、両問題に触れ、いま、自由民権運動から学ぶ意味と重要性を考えたい。

■2013年９月21日（土）　13:30～15:30　／自由民権記念館 1階民権ホール
■入場無料　どなたでも自由に参加できます。

（お問い合わせ先）　自由民権記念館内　高知近代史研究会事務局

行事予定

会場等の都合で変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。

月日	時間	会場	行事名	内容
9月21日	13:30～15:30	民権ホール	第70回高知近代史研究会 記念講演会	講師：安在邦夫（早稲田大学名誉教授） 演題「自由民権運動史への招待ーいま，なぜ自由民権運動かー」
9月21日	16:00～18:00	アトリウム	日本学術会議サイエンスカフェ 主催：日本学術会議・高知市	講師：須藤靖（東京大学大学院教授） 演題：「もう一つの地球はあるか？」
9月28日	14:00～16:30	研修室	企画展講座	講師：松岡僖一（当館館長）／演題「自由民権運動と学校」 講師：徳平晶（当館学芸員）／演題「近代教育制度と高知市の小学校」
10月12日	14:00～16:30	研修室	企画展講座	講師：松岡僖一（当館館長）／演題「自由民権運動と学校」 講師：徳平晶（当館学芸員）／演題「近代教育制度と高知市の小学校」
10月12日	13:30～15:30	民権ホール	「県詞の日」記念講演会 主催：自由民権記念館友の会	講師：高田昌幸（高知新聞記者） 演題：「現代社会と自由・民権を考える」
11月2日	15:00～17:00	研修室	第71回高知近代史研究会	報告：永橋禎子（高知県立文学館学芸員） テーマ「自由民権運動と文学」
11月6日～10日	9:30～17:00	自由ギャラリー	「はやぶさ・イトカワ」展（仮題） 主催：高知市　共催：高知大学	2010年に大きな話題となった小惑星探査機「はやぶさ」と サンプル採集をおこなった小惑星「イトカワ」の模型を展示。
11月16日	9:00～17:00	香長平野	民権史跡探訪 主催：自由民権記念館友の会	バスによる香長平野の史跡めぐり 講師：公文豪（友の会幹事）
12月13日	未定	未定	「兆民忌」 主催：自由民権記念館友の会	筆山にある兆民祖先の墓所の清掃と墓参。
12月23日	13:30～	自由ギャラリー	「第１７回民権凧まつり」 主催：自由民権記念館友の会	土佐和紙と竹を使って手作りの凧を作る。 1月4日（土）14時からは「土佐凧をあげよう」を開催（鏡川左岸トリム公園）
1月23日	未定	未定	「無天忌」 主催：自由民権記念館友の会	植木枝盛命日。 山ノ端町にある墓所の清掃と墓参。
1月25日	15:00～17:00	研修室	第72回高知近代史研究会	報告：奥田奈々美（横山龍一記念まんが館学芸員） テーマ「高知のまんが近代史」（仮題）
1月下旬～2月下旬	9:30～17:00	自由ギャラリー	第14回社会科自由研究作品展	高知市内の小・中学生の社会科に関する研究作品を展示。

時代の郷（ときさと）
自由民権記念館
自由のともしび
JIYU NO TOMOSHIBI
自由民権記念館だより　vol.75
発　行　2013（平成25）年９月１日　発行人　松岡僖一
発行所　〒780-8010 高知市桟橋通４丁目14-3 TEL.088-831-3336 FAX.088-831-3306